

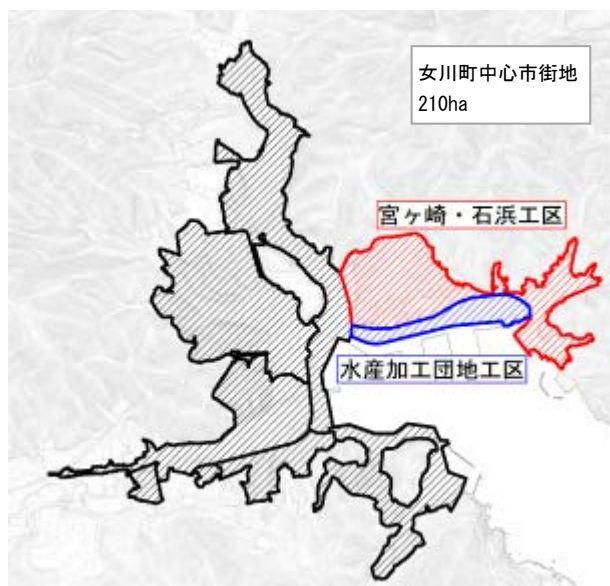
女川町震災復興事業成果（その４） －女川町の水産加工業の早期復興に向けて－

鹿島建設(株) 正会員 ○頓所 憲弥
鹿島建設(株) 正会員 榎畑 智之
(独)都市再生機構 朝原 龍彦

1. はじめに

東日本大震災により被災した宮城県女川町の災害復旧工事となる「女川町震災復興事業の工事施工等に関する一体的業務」では、中心市街地における工事区分を以下（図－１）として平成 24 年に工事着手した。

本論文では、そのなかで、水産加工場が密集する水産加工団地と臨港道路の早期復興に向けた取り組みと現在の工事現況について報告する。



図－１ 女川町震災復興事業における計画

2. 水産加工団地

女川町の基幹産業である水産加工業の工場を早期開業し住民生活の基盤を構築するために、その工場立地場所である、水産加工団地の盛土工事をいち早く着手した。工事は本工事の特色となる復興版 CM 方式¹⁾により実施し、用地交渉・調査・計画、および実施設計を進めながら、基礎構造物撤去や盛土工事準備工を並行して開始するファストトラック方式で進めた。

キーワード 震災復興、高台移転、ファストトラック方式、CM方式、VE提案

連絡先〒986-2261 宮城県牡鹿郡女川町女川浜字新田 9-1 鹿島・オオバ女川町震災復興事業共同企業体TEL 0225-50-3161

当区域は南北に臨港道路と国道に接し、震災後すぐに稼働した仮市場や加工場に隣接している。このため、各道路管理者や地権者と調整し、導線を確保しながら施工ステップを都度組立て、施工を行った。

その結果、当該地区の津波で流された建物の基礎撤去、盛土、および宅地整形を計画段階から順次完成させ、平成 24 年 12 月末に最初の工場建築用地を引き渡すことができた。これまでに約 8 割の工場用地が完了し、現在では 10 か所の工場が稼働している（写真－１）。



写真－１ 水産加工団地および臨港道路の工事計画

3. 臨港道路

臨港道路は、宮城県石巻港湾事務所管理の道路で水産加工団地に隣接している。その道路に女川町管理として水産加工団地から排出される加工処理水を流す専用管、上水道、污水管、および雨水管を占用する計画であった。

雨水管については、臨港道路側の雨水排水と水産加工団地側の宅内排水は県と町に管理が分担されており、別々の排水処理が計画されていた。当初、水産加工団地内に設置する町管理の宅内排水はコンクリート管 HPφ700 を道路下部に設置予定であり、県

管理の雨水は道路側溝で処理し、道路を横断するBOXカルバートに流下する計画であった。この計画では、雨水処理をそれぞれの管理区分で設置管理することとなり、2点の大きな課題があった。

① 雨水管の施工費及び維持管理費の増大

② 雨水排水管の吐口が平均潮位以下

雨水排水管が臨港道路下部となり、吐口高さが平均潮位以下（ $TP = -0.351m$ ）となるため、その設置に矢板・水替え工が必要となり、県工事である臨港道路の工事工程への影響が懸念された。

管理費を低減することができた。

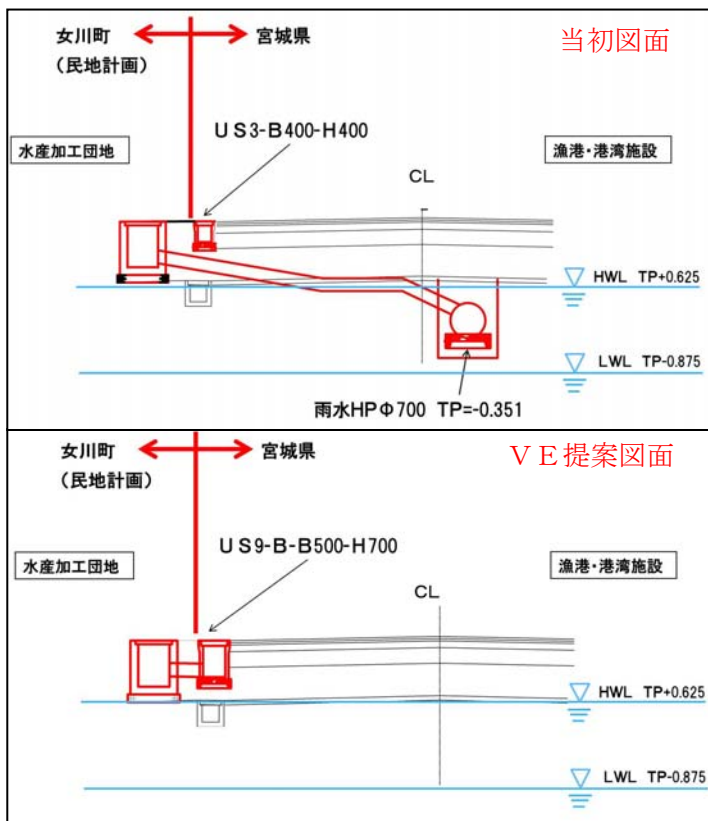
本事案は、管理者の垣根を越えた工事であり、CM方式の特色を表した工事である。

4. 今後の展開

・宮ヶ崎高台及び国道398号線

現在は主に90万 m^3 の切土宅地である宮ヶ崎高台と延長1.4kmの国道398号を施工している。約90宅地を計画している宮ヶ崎高台は平成29年9月に引渡しであり、平成27年9月から造成工期の短縮策として、発破を併用した工法に変更した。

国道398号線は、L1津波に対する防波機能を持たせるために約4mのかさ上げし、海側に防潮堤（胸壁タイプ：宮城県東部地方振興事務所水産漁港部）を有する構造である。先に述べた臨港道路に国道を迂回させ、通行止めをして工事を進めている。南側はすでに稼働している水産加工業の工場があり、北側には民家が点在しており、生活用道路を確保しながらの施工（写真－2）となる。工事は先行して、盛土を実施し、その後、宮城県の防潮堤工事に引渡し、完成後に再度、インフラ整備を進める工程となり、県との工程調整が必要となる。相互の施工エリア、工程を調整し、早期開通に向け工事を進めている。



図－2 当初計画およびVE提案の計画

そこで、2系統の雨水管を臨港道路と水産加工団地の境界の側溝に集約し、工事の簡略化と管理の煩雑さを軽減するVE提案（図－2）を実施し、町と県との協議を重ねた。

当初は県・町の双方が管理者の観点から、他のエリアの排水処理を行うことに難色を示していたが、雨水排水の財産管理や維持管理の方法を双方に提案した結果、町の宅地側溝を県の道路に占有させ、維持管理は町で行うことで承諾を得、施工に至った。

その結果、矢板・水替え工等の施工が無くなり、工事費の削減と臨港道路工事の工程が確保できた。

また双方の施設管理者においても施工費及び維持



写真－2 宮ヶ崎高台および国道398号線 全景

今後も復興版CM方式を最大限に活用し、早期生活再建に寄与していく所存であり、我々の活動が東北地方、女川町復興の一助となれば幸いである。

参考文献

- 1) 尾中隆文他，女川町震災復興事業成果(その1)－復興版CM方式の構築と成果－，土木学会第71回年次学術講演会 2016.9